猫の実（まこと） 優しく勇敢な雌猫の物語

坂東市猫実（ねこさね）



昔、貧しい二人暮らしの農家の夫婦がいました。飼い猫をかわいがっていて、猫もよくなついていました。ある年の冬、奥さんが猫をなでながら「おまえが粉挽きでもやってくれたらな」と言いました。翌日夫婦が山仕事から帰ると、いつも出迎える猫がいません。家に入ると、なんと猫が粉を挽いています。夫婦は猫を一層かわいがり、猫も一生懸命粉を挽きました。次第に夫婦と猫は言葉が通じるようになりました。

猫は近所の評判になりましたが、気味悪いと言う人もいました。ある晩猫は言いました。「どうかお暇をください」「なんでだい？」と夫婦が聞きますと、「お伊勢参りをすると人間になれるので、旅に出ます」と答えました。夫婦は心配でしたが、「お伊勢参りの猫」と書いた袋を猫の首にかけて送り出しました。

旅の途中、多くの人が助けてくれたので猫は無事にお参りし、人間の尼さんの姿になりました。

帰り道の夕方、宿を探していましたが、この辺は旅人を泊めるとお役人に怒られるとのことで、泊めてもらえません。やっと近くに泊まれる荒れ寺があると聞き行ってみることに。お寺に着くと境内で数人の男がたき火をしていました。猫の尼さんが「今晩泊めさせて頂きます」と言うと、一人の男が「ここはバケモノ出っぞ」と言いました。「バケモノを救うのが仕事です」と言って尼さんはお堂に入りました。

夜になると、牛ほどの黒い大ねずみが現れました。尼さんがにらむとねずみは逃げました。少しして、もっと大きな赤ねずみが現れました。尼さんがにらむとねずみは逃げました。そして真夜中になり大きな音がして、もっともっと大きなねずみが現れ、尼さんに飛びかかりました。黒と赤のねずみも出て来たので、尼さんが力を振り絞ると猫に戻ってしまいました。戦いの末、ねずみは退治できましたが、尼さんは力尽きて亡くなってしまいました。

翌朝、昨日の男たちが様子を見に来て、猫の尼さんが荒れ寺の化けねずみを退治してくれたことを知りました。村の人たちは、猫の実（まこと）に感謝して、尼さんを丁寧に葬りました。そしていつからか、この辺りを猫実（ねこさね）と呼ぶようになったそうです。

坂東市は、平安時代の武将 平将門が拠点とした地です。将門を祀った國王神社をはじめとする、ゆかりの史跡が残る歴史深い街を歩いてみてはいかがでしょうか？



〈参考文献〉「日本の民話62 茨城の民話 第一集」ほか（株式会社未来社 発行 日向野徳久 編集）

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215（大代） http://www.ibaraki-isuzu.co.jp